

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2012年 10月 3日

派遣者氏名（専門分野）	久保田 裕次	（ 日 本 史 学 ）
-------------	--------	-------------

派遣期間	2012年 9月 9日 ～ 2012年 9月 19日
------	----------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
台湾	台北	国家図書館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

ここでは、国家図書館の利用方法について簡単に述べる。国家図書館は中正紀念堂の向かいにある。まず、正面玄関に入って左側にあるビジター用のデスクで入館の手続きを行う。パスポートを提示し、臨時の入館証を発行してもらう。入館証の発行と前後して、正面玄関右側のロッカーに手荷物を預けておく必要がある。昼食などのために、一時退館する場合には、受付にその旨を伝えておけば、簡単に再度入館することができる。完全に退館する際には、臨時の入館証は返却する。国家図書館の蔵書は開架のものと閉架のものがある。各専門室によって、まちまちなので注意が必要である。3階には、台湾の各大学の紀要などが配架されている。最上階の6階には、漢學研究閲覧室や日韓文室があり、前者には本研究に関連する参考文献などが散見され、後者には日本語の著書があった。平日は午前9時から午後9時まで開館しているので、中央研究院や國史館で調査を行った後、国家図書館で調査を行うことができる。また、日曜日も開館日であるため（月曜日が閉館日）、平日は他の機関で史料調査をし、日曜日に国家図書館で調査をするという計画も立てることが可能である。一方で、各専門室の開室時間はそれぞれ異なっているので、注意しておく必要がある。

今回の調査において、派遣者は主に碩士・博士論文の閲覧を行った。2階に備え付けてあるパソコンで閲覧申請を行い、同じ階にあるカウンターに取りに行くのが基本的な作業である。また、碩士・博士論文の返却もこのカウンターで行う。受け取りまでの時間は40分から、長い場合だと1時間近くかかることもある。閲覧申請用のパソコンでは、繁体字や簡体字の入力はもちろん日本語入力も可能である。複写については、2階や3階にあるコピーコーナーで行うことになる。枚数が少ない場合には、現金で支払うこともできるが、基本的にはコピーカードを購入する必要がある。国家図書館全体の印象として、英語を話すことができる職員の数少なく、中央研究院よりも英語が通じないとの感想を持った。

ちなみに、昼食・夕食については、1階にセブンイレブンがあり、食事をする事ができるスペースもある。安く済ませるためには、弁当やおにぎりなど持ち込むのもよいが、セブンイレブンのお総菜もそれほど高くないため、それを利用してよいと思う。